

分科会「親の会」ができました

リメンバー名古屋自死遺族の会の分科会として「親の会」ができました。リメンバー名古屋の遺族会に参加したことのある方で、子どもを自死で亡くした方が対象です。

第1回目のお集まりは、2010年9月25日(土)、名古屋市内で行います。

関心のある方は、リメンバー名古屋自死遺族の会の事務局までお問い合わせください。

祈りの集い-自死者供養の会-

2010年9月11日(土)、東京都港区「東京グランドホテル」において、曹洞宗総合研究センター主催による「自死者供養の会」が行われます。

※リメンバー名古屋は、特定の宗教、宗派とのみ強い関わりを持ったり、お勧めしたりすることはありません。幅広くさまざまな宗教、宗派の行事などをご紹介しますので、お気軽に沿うものがあればご参加ください。

内容は下記のようになります。詳しくはホームページ(<http://www.sotozen-net.or.jp/>)をご覧ください。

内容:
○「端坐」～心を落ち着ける作法～
14:10～14:30
身を調(ととの)え、息を調えることで、心も調います。法要に際して、姿勢を正し、静かに呼吸するひとときを過ごします。

○「法要」～供養と祈り～
14:30～15:00
亡き人へのご供養を行い、安らぎを祈る場です。法要の際には、希望によりご戒名やお名前をお読みします。亡き人へのメッセージを持参された方には、ご焼香の時に直接祭壇にお供えいただけます。また、位牌や遺影、思い出の品などをお持ちいただいても結構です。

○「茶話会」～語らいのひととき～
15:00～15:30
別室に、お茶とお菓子をご用意いたします。私たち僧侶とお茶をいただきながら、ひとときをすごしましょう。

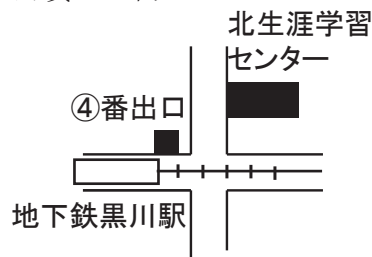
日時: 平成22年9月11日(土)
午後2時～3時30分
会場: 東京都港区芝 2-5-2
東京グランドホテル 5階
交通: 都営三田線 芝公園駅
A1出口 徒歩2分
主催: 曹洞宗総合研究センター
「祈りの集い」実行委員会
会費: 無料
定員: 50名
(9月3日までに申し込みください)
対象: 自死者遺族、または知人を自死で亡くした方。
宗教宗派は不問ですが、供養は曹洞宗の方法で行います。
連絡先: 〒105-8544
東京都港区芝 2-5-2
曹洞宗宗務庁内
曹洞宗総合研究センター
「祈りの集い」事務局
TEL/FAX 03-3454-6843
E-mail kyoken@sotozen.jp

※参加を希望される方は、電話・郵送・FAX・メールにて住所・氏名・電話番号をお知らせください。
※参加者のプライバシーに配慮するため、当日の取材はお断りしております。ここで知り得た個人情報ならびにお話の内容等、秘密を守ります。

次回の遺族会

第41回

8月22日(日)13:15から
名古屋北生涯学習センター
地下鉄名城線「黒川」下車
(4番出口)よりすぐ
参加費: 500円



その次は・・・

第42回

10月31日(日)北生涯学習センター

遺族向けセミナー 今年もします

昨年度は、「遺族向け連続セミナー」と題し、3回のセミナーを行いました。本年度は、「出張遺族会(仮称)」を、愛知県内(名古屋市外)で行い、その際に「遺族向けセミナー」を行う予定にしています。

午前中はセミナーの時間、午後はいつも行っているように、遺族会(わかちあい)を予定しています。

現在、場所、講師、日程共調整中です。12月以降の予定ではありますが、決まり次第、ホームページ、新聞、遺族会などでご連絡します。

第12回秋の遠足 11月21日(日)に決定

毎年春、秋に行っている遠足も、12回目を迎えます。今回は、11月21日に行くことに決まりました。行先はまだ決まっていませんので、ご希望などありましたら、お知らせください。
 ※行先など詳細は、ホームページ、新聞などで、今後発表していきます。日程が変更になる場合もあります。近くなりましたら必ずご確認ください。

冊子「自死遺族の手紙」原稿追加募集 —継続中—

リメンバー名古屋自死遺族の会の設立6周年企画として、冊子の発行の準備中です。

自死で亡くなった大切な方への手紙、あの時の自分への手紙、これからの自分への手紙、など、今の思いを、手紙にしたためてみませんか。

締切を6月30日としていましたが、もう少し多くの方の文章を載せたいと思いますので、継続して募集します。書き始めてはいるが、ちょっとまだまとまらないという方などおられましたら、完成していなくても結構です。一度ご連絡いただけますと助かります。

詳しい募集要項などは、ホームページか、リメンバー新聞第41号をご覧ください。

※12/20の遺族会で原稿をお渡しいただいた「ちい」さん。会までご連絡ください。ご相談したいことがございます。

いめんぼー

8月は「祈り」の日が続きます。6日の広島に始まり、9日の長崎、15日の終戦、そして、お盆があります。1985年から、12日に御巣鷹山（日本航空機墜落事故）が加わりました。

そして、僕自身の8月のカレンダーには、妻の「命日」が刻まれることになりました。

多くの著名人が参列し、日本全国、いや世界にさえ発信される祈りの日がある一方で、そのことを知っているのは数名というような静かな命日があります。それでも、遺族の持つ個別の悲しみには変わりはないのかもしれない。

—あの夏の日—

8月に祈りを捧げる人たちにとって、この言葉は、暑さ、日差しなどの感覚と共に、その時の記憶を一気に呼び起すもののように思います。それぞれの人には、その日に至る異なる物語があり、それまでとは別の人生が、その日から始まったのでしょう。

個別のものである「あの夏の日」は、他者のものとは関係がないかもしれませんが、しかし、「あの夏の日」という共通の言葉を持ってしまったばかりに、同じ暑さの記憶を共にしてしまっただけに、その悲しみが互いに心に沁み入ってきてしまうように思えます。そのことが、これほどまでに8月全体を重いものにしてしまうのかもしれない。

9日11時2分、長崎原爆投下時刻に合わせて、近くの寺が追悼の鐘を鳴らしています。もうしばらくすると、僕にとっての「あの夏の日」、その時刻を迎えます。

今年は、あの日のようにとても暑い8月です。(KN)

リメンバー文庫



リメンバー文庫では、遺族の方向けの書籍を集め、遺族会の時などに貸し出しを行っています。今回は、文庫の中から「世界の遺児100人の夢」を紹介させていただきます。

リメンバー文庫第2回目に紹介する本は「世界の遺児100人の夢」です。この世界の遺児たちの本は、2005年あしなが育英会主催「日本と海外遺児の心の癒し交流会」で災害・戦争・テロ・HIV／エイズなどを原因に、親を亡くした子供達が来日したときに書いた将来の夢の作文を載せたものです。彼らは本当に悲しく、そして優しい心をもっています。私は、親を亡くした悲しみに押しつぶされそうになりながらも、優しい心で世界をつつもうとしている遺児たちの姿に涙しました。

現在、世界には二億人の遺児がいるといわれています。ユニセフデータによれば、全世界の子供の12人に1人が親を亡くしているとのこと。また、ある精神科医は、突然に親を亡くした子供は、世界に見捨てられた・頼れる人がいない・生きている自分を見守ってくれる人がいない、といった孤独な感情に閉ざされるといっています。テロ遺児であるエイモン＝スチワート君は「僕の卒業式や結婚式では父の姿がないだろうし、自分の子供が祖父に会うこともないでしょう。」と語っています。自死遺児も例外

ではありません。後ほど紹介予定のあしなが育英会編の本などで、彼らを取り上げたいと思っています。

この本を通して読んでいくと、遺児たちが築こうとしている「やさしさの文化」に気づかれることでしょうか。年間3万人以上の自死者を生み出している日本社会に、この「やさしさの文化」が浸透すれば、何かが変わるかもしれないとさえ思わせられる本です。

また、追記になりますが「世界がもし100人の村だったら」という絵本も参考にして読まれると、心の中の「やさしさ」に気づけると思います。日常に追われて消えてしまいがちな「やさしさ」。はじめの一步だと思えます。(A. S)

世界の遺児100人の夢
 岩波ジュニア新書
 あしなが育英会(著) ¥ 882

世界がもし100人の村だったら
 マガジンハウス
 池田 香代子(著), C.ダグラス・ラミス(翻訳)
 ¥ 880

スタッフ募集

遺族会に参加したことがある方で、会の活動のお手伝いをいただける方募集しています。詳しくはお問い合わせください。